

新興・融合科学領域における「予見・分析手法」の検討と人的ネットワークの形成

実施体制

有本建男（GRIPS客員教授）、平川秀幸（大阪大学CO デザインセンター 教授）、岡村麻子（GRIPS-SciREXセンター特任フェロー）、畑中綾子（GRIPS客員研究員）、安藤二香（GRIPS専門職-SciREXセンター）、若林魁人（大阪大学CO デザインセンター）他
文部科学省 科学技術・学術政策局企画評価課 新興・融合領域研究開発調査戦略室室長補佐 久保田唯史 他

科学技術及び政策の両面において、将来を見定めて先手を打っていくためには、「過去」のデータ等にも基づいて判断をするのでは不十分であり、「未来」をエビデンスとした政策立案を行っていくことが必要。これに向けた基盤を政策担当者と研究者が協働して構築。

＜課題解決に向けた本プロジェクトの具体的目標＞

※開始当初のもの

①新興・融合科学領域において予見されるインパクトを多角的に把握し、政策形成に資するエビデンスを作成するための手法の整理・体系化

→ 世界的なミッション志向型イノベーション政策の重要性を受けて目的の修正

①' ある研究開発成果を起点とした「インパクトとして予見される未来」、あるいは研究開発の目標となる「目指すべきありたい未来」を多角的に把握し、政策形成に資するエビデンスを作成するための手法の整理・体系化

②人的ネットワークの形成

フォーサイト関係の研究者・実務家

＜手法＞

I 「予見・分析手法」の整理・体系化（メタ調査）

- フォーサイトに関する方法論や課題等についての既存のレビューや実務家に向けたガイドライン・ツールキット等を対象とした文献調査
- 国内の大学・研究機関においてフォーサイトの手法や実践に詳しい専門家へのヒアリング
- 外部有識者を招いたフォーサイト俯瞰ワークショップ



II 「予見・分析手法」のプロトタイプ的设计、課題の抽出

- 外部有識者を招いたフォーサイト・デザインワークショップ

研究会、ワークショップでの議論を通じて検討。

研究の目的・手法

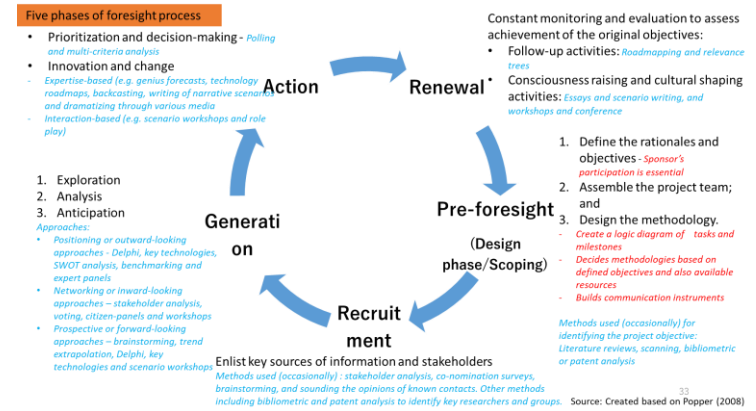
I 「予見・分析手法」の整理・体系化（メタ調査）

- (1) 文献調査：フォーサイトに関する方法論や課題等についての既存のレビューを基に、紹介されている手法・使用事例・技術課題・実装上の課題・評価や指標等の概要を一覧化
- (2) 国内専門家ヒアリング：フォーサイトの目的・定義の多義性、フォアキャストとバックキャストをどうつなげるか等意見交換
- (3) フォーサイト俯瞰ワークショップ（2020年1月17日）：国内でのフォーサイト事例の紹介と技術的・制度的課題の議論

II 「予見・分析手法」のプロトタイプデザイン、課題の抽出

- (1) プロトタイプデザイン設計
- (2) フォーサイト・デザインWS
- バックキャスト的アプローチ（2020年11月25日）
- フォアキャスト的アプローチ（2020年12月4日）

WS開催等を通じた、フォーサイト関係研究者・実務家の巻き込み
→ ネットワーク形成の下地作り



日本版ツールキット（仮称、β版） ※作成中

- イントロダクション
- ・フォーサイトとは何か、何故必要とされているのか
- ・日本の状況、課題
- ・科学技術においてなぜフォーサイトが必要か
- いつフォーサイトが必要か
- ・フォーサイトを必要とする状況、使用する目的
- ・機関、分野、政策プロセス毎にどのような目的があるか
- フォーサイトをどのように行うか
- ・方法論の概略、組み合わせ
- ・新興融合領域に特徴的なフォーサイトとは
- 実効性を持つフォーサイトの制度化に向けて

プロジェクト開始以降2021年1月迄、2019年度6回、2020年度10回の研究打合せを行ったが、研究打合せには研究者・行政官の双方が参加し、問題意識の擦り合わせ・共有等、自由闊達な議論を行った。議論を重ねていくプロセスそのものが政策と研究の共進化のステップとして意義が大きかった。

- 研究者：行政官のふるまいやマインドに触れることで、行政官の悩み・制約や、政策課題そのものへの理解を深める。現実の政策課題に直面してこなかった自らの研究活動の振り返りも。
- 行政官：知識・知見のつまみ食いではなく、体系としてみることや背景にある理論・課題等を見る重要性に気づき。成果を焦るのではなく、成果を出すまでの土壌、根っこ、枝葉といったところを形成していく重要性への理解。